

### 皆さんからのお便り!

人生いろいろ 思い出いろいろ

#### 森林遊びサポートセンターの思い出

大和谷 正人(南区)

2010年5月に入会、8年間の活動でしたが、小林会長の統率力とメンバーの貢献と通底する自然への畏怖が胸に去来します。

秋が深まる頃、朝、銭天山荘の錆びたブリキの煙突から立ち上がる青い煙を目にして、泊った人がいたのだ、いい時間をもっているなあ、と感じ入りました。名を聞き覚えていただけのカニカン岳へ連れていってもらった時、何か故郷へ申し訳ないことをしてきたのではないかと、奇妙な感覚に襲われました。

奥美利河温泉から二股温泉までの縦走は、4時間以上かかりました。道が手入れされていて驚きました。後年、妻と奥美利河温泉へ行きました。どこまでも透明で体を洗わせない湯は、周りの野趣とマッチして夜は秘湯だ、と思っていたところ、平成29年から閉鎖中となりました。

入山点と下山点が違うことが好きでした。そよかせ観光バスと連携した会の強みでした。幌武意から入り島武意海岸へ出た散策路の途中で見た女郎小岩、この一枚は大きくて書棚に飾っています。地球は丸いんですね。

札幌森友会が時代の要請に呼応するかのごとく生まれて、400名を超える大きな会になり、活動実績を積み、北海道を代表する森の会と認知されて「全国子どもサミット」の実施部隊となりました。そして、終焉をおかえました。これは私たちが古来身に染み込ませてきた「はかなさ」ではないでしょうか。

もうすぐ雪が溶けたら、家族を連れて、茨戸川緑地に行き、さぼるふるさとの森(ラブアースの森)を見ようと思います。夏の炎天下、アイスノンをタオルに巻いて首の後ろに縛り付けて作業した経験は、自己満足をくすぐります。皆様、ありがとうございました。

(2019年 2月23日)



全国子どもサミット 平成25年8月6日～7日

#### 芦別岳(1726m)回想

広井 正子(南幌町)

50年前、土曜日の仕事が半ドンで終り、鈍行列車に乗り芦別岳に向かいました。山部駅に早朝3時位に着き、1時間ほどで登山口に到着しました。登り4時間30分、下山は3時間位かかりました。午後の列車で帰路です。1年に2、3回登り、若い時の懐かしい思い出です。

10年前位になると思います。札幌森友会です。あの時の歩きは出来なくて、頂上には「這って」でも行こうと仲間が励まし合ひながら嬉し涙の芦別岳登山になりました。心の中でヤッホーと。

小林会長さん、役員の方々が本当にありがたうございました。最後になりますが、会長さん、奥さまの支えと共に数々の功績を残されお疲れさまでした。

#### ひとこと 松本 和英(南区)

平成15年のNPO設立から事務的なお手伝いをさせて頂きました。役員の方々が、特に小林会長には森友会より更に28年の長きに渡り大変ご苦労でした。とても言い表すことができませんが、心からお疲れ様でした。皆さま方の益々のご健勝を祈念申し上げます。

#### 思い出

小松 久美子(恵庭市)

長い間お世話になりありがとうございました。私にとって札幌森友会の思い出は、人間的にも成長させていただいた数々の山行きでした。先輩の皆さんにも色々ご指導いただいたことも、今では山の友人に得意げに「こういう時はこうするよ」と話しており感謝しております。

また、夏のすごく暑いときに登った西富良野岳では、渡渉中めまい?をして気がいたら左手首を骨折してしまいました。あまりのショックと皆さん方に迷惑を掛けるとの思いで、つい「へり」を呼んでもらえますか!と。今では笑い話ですが、小林会長の適切な処置で痛みもなく病院へ、皆さんには何から何までお世話になりました。

そして小樽～新潟～佐渡のフェリーの旅はとても楽しかった思い出です。

小林会長との出会いは、今の私にとっても影響しております。絶大なる信頼とユーモアたっぷりにお話しされ、いつも笑いを貰っていました。皆さまもこれからの山行き存分に楽しんでください。

本当にすばらしい会に入ったことを、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。



学校林・小鳥の村 地こしらえ作業



#### 学校林「小鳥の村」の「げんきな美しい森」



北海道の札幌市立藤の沢小学校は1914年に開校し、1956年に、校訓「愛鳥愛人 育ち育てる」を子ども育成の基本理念として学校林「小鳥の村」約9haが開村された。この村は、年齢が150歳(年)程で背丈の高いミズナラから希少植物の野生ラン等190種程と、クマゲラ始め80種余りの小鳥、時々現れるヒグマ等10種類の動物と、190種程の虫等の交流の場である。

この村を活用して、1959年から全校生徒と保護者等で行う愛鳥祭や、子どもたちの植樹体験、森や木々の学習が続いている。

この村で、2004年の台風により大量の風倒木が発生した。2007年からこの森の復興に「げんきで美しい森」づくりを目的に取り組み、花と実のなるエゾヤマザクラ、ナナカマド、クリ等と、小鳥たちの隠れ場として常緑のドマツ、アカエゾマツ等をモザイク状に植樹した。

春には花々が咲き、夏には涼しい緑のトンネル、秋には紅葉と種子が実り、冬の安心隠れ場が備わり小鳥や動物と、虫たちも喜ぶ森づくりを行った。

真冬の今は、雪の真綿に包まれたナナカマドの真赤な実は、冬の森唯一の宝石の輝きを誇りながら四季を彩っている。小鳥たちは、この頃になればナナカマドの実が美味しくなることを待っているようだ。

この森が、これからも子どもたちを始め、小鳥や動物たちみんなに親しまれる「げんきで美しい森」を見守ります。

(小林 文男)

一般社団法人全国森林レクリエーション協会発行「森林レクリエーション2019年2月号(通巻381号)窓欄に掲載されました

#### 「短いながら多くを学んだ4年間、そして次の活動へ」

中川 成(南区)

この記念すべき「もりのとも最終号」に、冒頭少々恨みがましいことを申し上げるのをお許し下さい。と言うのも、入会時期が遅かったと言ってしまうはそれまでですが、この会の活動期間28年に比べれば私の4年はあまりにも短かすぎ、そればかりか先輩の皆さんから過去の活発な活動振り(屋久島にも外国にも出かけている)を聞くに付け当時の一員になれなかったことが恨めしく残念に思うからであります。

それでもこの4年間素朴でありながら情熱あふれる会長のもと、楽しくそして多くのことを学ばせていただきました。特に学校林の環境教育に力を入れる強い思いに感銘いたし、そう言う雰囲気の中で子どもたちとの一緒に活動は感動の連続でした。この会は新しい会に引き継がれます。短い期間でしたがこれも何かのご縁。私はこの感動体験を次の活動に生かし、会長の思いを少しでも引き継ぎたいと思います。

#### 皆さんからのお便り!

人生いろいろ 思い出いろいろ



#### 熱い思い 心揺さぶる

第26号～第37号

「かいちょう日記」一挙掲載 最終回 森と歩んだ80年

人生いろいろ 思い出いろいろ

#### 思い出の記録

第26号(平成23年)以降を振り返り、心に残った投稿文を再掲載しました(P-17～P-23)